

紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.56

成田市立図書館だより 第56号 2004年（平成16年）1月15日発行

編集 成田市立図書館 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3 ☎ 0476-27-4646

FAX 0476-27-4641

<http://www.library.narita.chiba.jp>

H15年度 図書館講座特集号



卵の上に立つなんて、ほんとにできるの!?

(児童講座「君はコロンプスをこえられるか—たまごの実験—」より)

児童講座「君はコロンブスを こえられるか？—たまごの実験—」

坂口美佳子氏（科学読物研究会）

今年度の科学あそび講座は、7月25日（金）に「君はコロンブスをこえられるか？—たまごの実験—」と題して行われました。

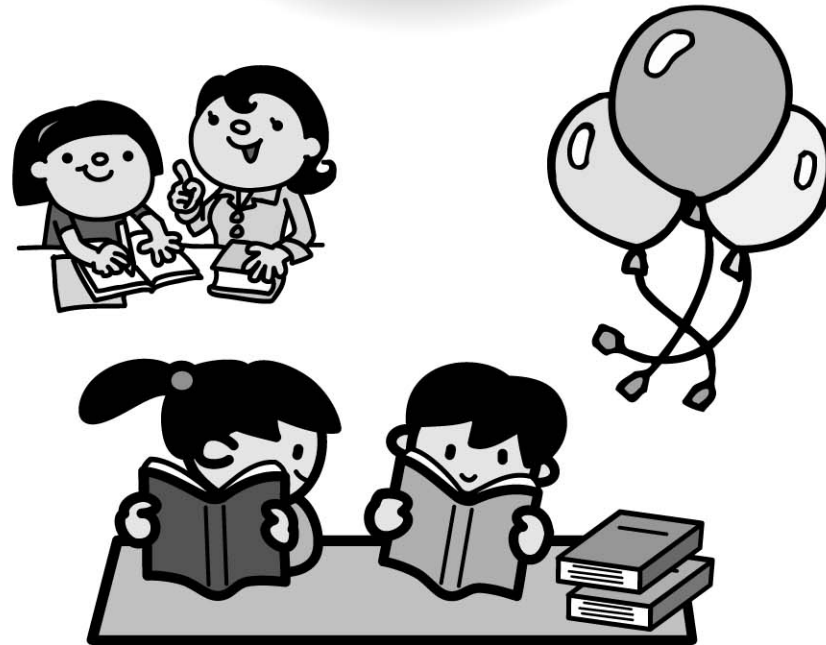
「生卵と言えば、壊れやすい。」と多くの方は、こんなイメージを持っているのではないのでしょうか？ところが講座では、「生卵の上に立ってみる。」というスリル満点の実験が行われました。パックに入れてビニールで包んだ生卵30個の上にまな板を乗せて、その上に一人ずつ静かに立ちます。（表紙の写真がその図です。）みんなこわごわ足を下ろしていましたが、その結果は…？参加した小学生はもちろん、大人が立っても卵は割れませんでした。その強さの秘密は、卵の形（アーチ型）にあるようです。

落とせばすぐ割れる生卵にも、意外な性質があることがわかりました。そのほかに、各自机の上で卵を立てる実験も行いました。立てやすい卵とそうでない卵があるそうで、当日は先生が立てやすい卵を人数分持って来てくださいました。そのかいあって、ほとんどの子どもたちが成功。うれしそうな笑顔が広がりました。皆さんもぜひ一度挑戦してみてください。



*参考になる本『卵の実験』伏見康治著 福音館書店
『たまごの立つ話』（科学入門名著全集⑦）国土社

H15年度 図書館講座 特集



市史講座「地名について」

谷川健一氏（日本地名研究所所長）

谷川先生は、民俗学や歴史学等を通して、長年日本人のアイデンティティや死生観を追究されています。編集者や諸学の研究を経て、昭和56年日本地名研究所を設立され、地名を守り研究を広めるため、全国的に活動を続けられています。

冒頭、「地名は飲料水と同様に日常茶飯事に使っているものの、自分達を養ってくれている事をややもすると忘れがちで、無神経に対応しています。最近の市町村合併で色々新しい地名もついていて、地名の扱いが粗雑である」と問題提起をされました。

地名は、何千年という昔から今日まで我々は一日も絶えることなく使ってきました。江戸時代7万ほどあった地名が、明治の町村合併で1万位に減りました。その時既に消えた地名が、今に至るまで地元の人によって使われているものもあります。地名は、錆びない文化財とも言えます。地名は、場所の認識の符号にとどまらず、人々の共同情緒を誘ったり追体験が出来る要素を持ち、大地に刻まれた歴史の索引のようなものと強調されました。また、動植物や色などから推測できる地名の由来についても、具体的な事例を中心に紹介されました。それらは、遺跡、古代史、古事記・万葉集、民話、芭蕉の句や啄木の歌と、次から次と登場し日本文化そのものが身近に感じられる講演会でした。時間ぎりぎりまで、質問にお答えいただきました。



*主な著作『日本の地名』岩波書店 『地名の話』平凡社
『民俗・地名そして日本』同成社 その他多数

文学講座「成田と街道・水運物語」 山本鉦太郎氏（旅行作家・劇作家）

毎年、読書週間にちなんで開催している恒例の文学講座を、今回は著名な旅行作家の山本鉦太郎さんに「成田と街道・水運物語」と銘打って講演していただきました。山本さんは昭和4年に東京・深川木場で生まれ、現在は流山市にお住まいです。

子どものころのお話や、歌舞伎人形を使って、成田に縁のある市川団十郎や海老蔵についてのお話をされました。またよく成田にも取材に出向かれており、その際収集した街中の話題などを話され、成田についても大変精通されていました。成田付近の地名や街道名の由来についての、エピソードを交え、数多くの資料を使っただけの講演は観客を魅了し、時間の経つのが早く感じられました。

山本さんは、最後に「江戸時代からの成田街道を実際に自分の足で歩いてみて下さい。感動を覚えるとともに、ご自分の健康にもよいから」と力説されていました。

*主な著作『江戸川図志』、『房総の街道繁盛記』、『新・利根川図志上・下』、『川蒸気通運丸物語』、『復刻鉄道唱歌』（以上、崙書房）など多数



フランさんと浩子さんの「おとなのためのおはなし会」

フラン・ストーリングス氏 藤田浩子氏

昔話を聞くということは、老若男女を問わず心を豊かにし、リラックスさせてくれるものです。これは日本だけではなく、世界の国々にも言えることです。今回、藤田浩子さんとフラン・ストーリングスさんをお招きして心温まる時を過ごすことができました。お二人の出会いは、1993年。プロのストーリーテラーであるフランさんがアメリカから柏に住んでいた弟さんを訪ね、同じく経験豊かな語り手である浩子さんに会いました。それから浩子さんとフランさんの交流が始まりました。

言語の違いはありますが、お二人の思いは一緒。息の合った会話で聞き手もおはなしの世界に引き込まれました。イギリス民謡の『マイボニー』では、Bで始まる単語の時に座っていたら立つ、立っていたら座るという単純な遊びをしました。『蛙の雨ごい』では、指・手や体を使って皆で参加することで一つのおはなしを作り上げました。また、フランさんの奏でる“オートハープ”という豎琴に合わせた歌物語もあって、時間が経つのが早く感じられる、和気あいあいとしたおはなし会でした。



フランさんと浩子さんの本

- 『英語と日本語で語るフランと浩子おはなしの本』
第1・2集 一声社
- 『おはなしおばさんシリーズ』 1～5 一声社
- 『おはなしおばさんの小道具』 正・続 一声社
- 『かたれやまんば』 1～3 藤田浩子の語りを聞く会

赤ちゃんも絵本が大好き Part4

『じゃあじゃあ びりびり』まつのりこ 作/絵 偕成社

「じどうしゃ ぶーぶーぶーぶー」「いぬ わん わん わん わん」「みず じゃあ じゃあ じゃあ」「かみ びり びり びり びり」まだ言葉を話せない赤ちゃんでも、一度は聞いたことがある「音」や「鳴き声」がたくさん載っています。「みず じゃあ じゃあ じゃあ」と本を楽しんだら、今度は「じゃあ じゃあ じゃあ」と言いながら水遊びをしてみませんか？ きっと、言葉の世界が広がります。



編集後記

今年度もいろいろな講座がありました。その道の専門家から聞くお話には、本から得られる知識ともまた違う何かがあるのではないのでしょうか。

今回参加された多くの人たちにも、人から学ぶ楽しみや知る喜びに接していただけたように思います。図書館では毎年このような講座を企画しています。興味を引くものがありましたら、ぜひ足を運んでみてください。

成田市立図書館だより
発行 成田市
編集 成田市立図書館
〒286-0017 成田市赤坂1-1-3
☎ 0476-27-4646
発行日 2004.1.15
登録番号 成教図03-044